

## あらすじ

京都三条室町の裕福なちりめん問屋「誉田屋」の一人娘お花は、ふとした風邪がきっかけでぶらぶら病い、医者も薬も利きません。もう助からないと思つた両親は、なんでも願いをかなえてあげると言い出します。

さて、……

## 台本構成・演出

秋山 太加

## キャスト

誉田屋忠兵衛

田中 章恵

ご寮さん

太田 淑子

娘・お花

秋山 太加

手代・久七・丁稚

福嶋 左知子

劇中 三弦演奏

井上 満智子

## スタッフ

ヘアメイク

日本メイクアップアーティスト学院

五十嵐 公子

着付け

奥山 みどり

協力

(有)ムーブファクトリー

西角 秀紀

MIYA

田中 仁美

## 演目解説

「誉田屋」出典  
講談社文庫「古典落語」

上方人情噺の大物である。起伏のあるストーリーで六代目・笑福亭松鶴も高座で取り上げている。話の舞台は京都だが、落語では大阪弁で語られており、今回も原作のセリフを大阪弁に近くして、演じることとした。

\*下げ(落語のおち)は

「観音さんのおかげやなあ。」

そのわけは……

観音さん(観世音の異称)は「風」の俗称である。

風の頭部近くに生える肢を千手観音に見立ててこういう。

\*「観世音」は

「妙法蓮華経」などに説かれる菩薩。大慈大悲で衆生を救済することを本願としている。

\*「新粉餅(糝粉餅とも書く)」は

精白したうるち米を洗い、干してひいた粉を練って作った餅。略して「しんこ」とも呼ぶ。

## 次回公演・お知らせ

第十一回定期公演

二〇一三年七月

六日(土)・七日(日)

皆様お誘い合わせの上、ぜひお越しくださいますようお願い申し上げます。

ご挨拶

演出・秋山太加

このたびは「縁の会」よりお誘い頂き、国の有形文化財に登録されている山本能楽堂の舞台に立つことが出来ますことを、心より感謝申し上げます。

下見で初めて舞台を拝見した時、堂々たる屋根の重み、舞台の風格に圧倒され、「これはえらいことになった」と不安で一杯になりました。

豪華な装束をまとった能楽師が立つてこそ映えるのが能舞台。私たちが座ると、あらら、余りに小さく見えて……

稽古を積みながらも、不安と、重圧に押しつぶされそうになる日々でした。でも、どうあがいても朗読GENの朗読劇をぶつける以外にないのだと覚悟を決めることに致しました。

未熟ではありますが、一生懸命に努めますので、何卒最後までご覧くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

二〇二二年一月八日(土)一五時開演

大阪市中央区 山本能楽堂

朗読劇団 朗読GEN (「縁の会」賛助出演)

ほん だ や

誉田屋

(上方落語より)